

二〇一九年八月九日

五具足は父祖の形見や盆支度
秋草の起ち直りをる今朝の雨
霊水の岩の常濡れ苔の花

二〇一九年八月八日

辻堂に合掌深き秋遍路
味噌汁の熱きをすすり暑に耐ふる

二〇一九年八月七日

梅花藻に日の斑の遊ぶ泉川
街中の小田の一枚稲の花
山裾に寝落ちし四五戸星流る

二〇一九年八月六日

湧水や富士の裾野の新豆腐
蛸や森間包む夕帷

二〇一九年八月五日

喜寿すぎてなほチャレンジや雲の峰
せせらぎの音を覆ひし真葛原
花火師の中洲に浮かぶ影法師
更けて尚風に乗り来る踊唄
朝涼のラジオ体操足軽し
道の駅レシピを添へて夏野菜

二〇一九年八月四日

ゼンマイの螺子巻くやうに夜蟬鳴く
元氣だせよと朝蟬の啼きはじむ
寄付集む盲導犬へ団扇風

二〇一九年八月三日

おはぐろの水面広しとホバリング

毎日句会みのる選・二〇一九年八月二日

こすもす

明日香

ぽんこ

素秀

宏虎

せいじ

はく子

菜々

宏虎

そうけい

やよい

そうけい

智恵子

菜々

たか子

明日香

うつぎ

うつぎ

なつき

素秀